

平成18年度
北海道大学大学院文学研究科修士課程入学試験問題（後期外国人）
（専門試験） 心理学

全2枚のうち1枚目

問1から問4まではそれぞれ一枚ずつ解答用紙を用いること。
問5の10問は全体で一枚の解答用紙に記入すること。

問1 認知心理学の研究において、反応時間や正答率はどのように用いられているか、論ぜよ。

問2 質問紙の反応記入で、3点尺度、5点尺度、7点尺度、10点尺度などが用いられるが、
どういう質問紙の場合にいずれの尺度が妥当であるかを判断する基準を説明せよ。

問3 長年の経験や学習、職業的訓練を経て獲得されるいわゆる「目が肥える」という現象を認知
心理学的観点から説明せよ。

問4 コンピュータのディスプレイ上で、微妙に色合いの違う2つの色見本を並べて提示して、そ
の異同判断を行い、かつ、この作業を連続して行うような色識別実験を考案した。この実験に
対して、いま2つの強化方法（a1, a2）が考えられるとする。a1は判断の正確さに対して、a2
は判断の速さに対して報酬を与えるものとする。この条件に大学生を4名ずつ選び割り当てた。
彼らはまた4つのセッション（b1, b2, b3, b4）に参加して、そのもとで正確に行われた作業量が
調べられ、下記のようなデータが得られた。

1) データの特徴が適切に示されるようにグラフを描け。

2) このデータに対してどのような分析を行えばよいか。また、問題点などがあれば述べよ。

被験者	a1			
	b1	b2	b3	b4
S1	2	5	7	8
S2	7	9	13	10
S3	7	13	12	13
S4	4	5	8	5

被験者	a2			
	b1	b2	b3	b4
S5	10	13	16	19
S6	7	7	12	9
S7	7	8	12	15
S8	11	15	16	14

問5 次の語句を簡潔に解説せよ。

- ① マグニチュード評価法（magnitude estimation method）
- ② 気分一致効果（mood congruency effect）
- ③ 誤概念（misconception）
- ④ 脳内自己刺激（intracranial self-stimulation）
- ⑤ 学習性絶望（learned helplessness）
- ⑥ 項目反応理論（Item Response Theory）
- ⑦ アフォーダンス（affordance）
- ⑧ 内言（inner speech）
- ⑨ 一般知能因子（g）
- ⑩ ウィリアム・ジェームズ（William James）